

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)	◎	－	－	－
	○	百貨店（企画担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着き、年末年始は来客数が増加している。在宅時間の充実を図る傾向がある。
	○	スーパー（統括者）	来客数の動き	・年末商戦は過去最高の売上を更新しており、大切なイベントである晴れの日には多くの客が来店しているが、年明けは反動で減少傾向である。売上は持ち直してきたものの、新型コロナウイルス第6波の影響で横ばいとなっている。
	○	家電量販店（店員）	販売量の動き	・落ち込んでいた3か月前と比較すると、今月の売上は若干上がっている。しかし、数字は満足できる状態ではない。当県ではそこまで寒くないため、季節商材の動きはないが、その分を補える商品が出てきている。
	○	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	来客数の動き	・3か月前と比べると、売上は前年超過で推移しており、数字面ではやや回復している。一方で、新型コロナウイルスの新規感染者数が急増し始めた1月中旬以降は目に見えて客足に悪影響が出ており、序盤の貯金が少しずつ減っている。加えて、当県にもまん延防止等重点措置が適用され、飲食店を中心に売上及び集客への影響が出ている。
	○	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・光回線のエリア拡大により、販売量が増加している。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・3か月前はまだ先行きが見えないながらも、少し状況が落ち着いていたが、新型コロナウイルスオミクロン株が感染拡大しており、客が再び外出等を控えるようになっていく。前回の新型コロナウイルス変異株よりも重症化しないため、客の動きはあるが、購買にはつながっていない。
	□	一般小売店〔青果〕（店長）	それ以外	・当地の中央卸売市場は、3か月前から比較すると相場に変化が出ているが、寒さで引き合いが多く、値段が高くなっている野菜もある。しかし、全体的には横ばいである。
	□	スーパー（店長）	お客様の様子	・年末年始は帰省客が前年より多く、営業成果の指標となる数値が上昇し、従来の景気に戻りつつあったが、新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大で状況がまた一変しており、景気自体はさほど変化がない。
	□	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・野菜の価格変動が激しい上に、今年は例年と比べて暖かい日が多く、鍋商材の動きが悪い。新型コロナウイルスも含めていろいろな要素が入り乱れ、販売量は前年と大きく変わらない。
	□	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症がまん延しているが、経済活動は続いており、即席食品等の日持ちする商品の売上が好調である。
	□	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、景気も上向きになっている矢先に新型コロナウイルスオミクロン株が急拡大し、世の中が混乱している。店の売上も少しずつ良くなっていたが、先行き不透明で不安である。
	□	衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・10月と比べ、1月の前半は客の回遊性があったが、後半は新型コロナウイルスオミクロン株が感染拡大し、来客数はかなり減少したため、非常に厳しい月末になっている。
	□	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・コロナ禍の影響で、新車生産が回復するどころかますます減産となっている。自動車販売店では、受注が堅調に推移しているが、納期が長引いているために売上が計上できず、大変苦勞している。
	□	住関連専門店（経営者）	それ以外	・都市部でのキャンペーンは余り良くない。また、今月の店舗での売上は良いが、今月中旬からの新型コロナウイルス新規感染者数の増加により、人の動きが少なくなっている。

□	高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・1月中旬までは新規感染者数の減少で、地元客も県外の観光客も増加していたが、急激に新規感染者数が増えると、時短営業に入り客足が途絶え困っている。
□	その他サービスの動向を把握できる者(所長)	それ以外	・本地区でもまん延防止等重点措置が適用されているが、客の工場でも新型コロナウイルスの新規感染者が出ている。
▲	商店街(代表者)	来客数の動き	・前年末から年始にかけては、新型コロナウイルスの新規感染者数が減少したことで、来街者数は増加し、売上は回復していた。しかし、新型コロナウイルスオミクロン株が感染拡大し、新規感染者数の増加と同時に来街者数は極端に減少し、厳しい状況が続いている。
▲	商店街(代表者)	来客数の動き	・正月を過ぎ、新型コロナウイルスの感染が拡大したことで、人通りが減り、売上に影響が出ているため、不安を感じている。
▲	商店街(代表者)	お客様の様子	・年末年始の出費が多く、客の財布のひもが固くなっている。また、新型コロナウイルスオミクロン株の新規感染者数の増加により、商店街に客の足が向かないのが現状である。
▲	商店街(代表者)	来客数の動き	・今月の商況は、時間の経過とともに来街者と来客数が減少している。
▲	一般小売店[精肉](店員)	販売量の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大により、飲食店が営業時間短縮になり販売量が1月下旬を境に激減している。
▲	一般小売店[鮮魚](店員)	お客様の様子	・少し売上が回復していたが、まん延防止等重点措置の適用前から売上が一気に落ち始めている。鮮魚店からの注文がほとんどなくなり、諦めの気持ちが強くなっている。魚の入荷量が減少しているが、慌てていない人が多い。
▲	一般小売店[生花](経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株の爆発的な感染拡大により、人流は減少している。花を贈る機会も少し減り、その分の売上が下がっている。
▲	一般小売店[茶](販売・事務)	お客様の様子	・前年末から新型コロナウイルス新規感染者数も10人以下となり感染状況は落ち着きつつあったが、今月は新型コロナウイルスオミクロン株が急激に広まっており、今まではない速さで新規感染者数が増加している。通常の営業もできず、長年取引をしていた企業からの注文も途絶えている。高齢客は外出を自粛しており、売上は減少している。
▲	百貨店(経理担当)	競争相手の様子	・市内4店の売上高の見通しは、前年比123.8%と伸びているが、前々年比は76.8%と苦戦を強いられている。3か月前の売上高は、前年比92.9%、前々年比91.7%である。初売り等は好調に推移したが、まん延防止等重点措置が適用された後から、急激に売上高が減少している。
▲	百貨店(業務担当)	お客様の様子	・コロナ禍が2年続いており、このままの状況が継続すれば、外出用や旅行用の物品購入もしばらく必要ないと判断する客が多くなり、消費はしばらく回復しない。
▲	スーパー(店長)	販売量の動き	・都市部の店舗のため、年末年始の客の流出で売上が減少傾向であり、衣食住商品共に苦戦している。
▲	スーパー(総務担当)	来客数の動き	・前年末にかけて、やや単価の高い買物をする客が増えていたが、1月に入り来客数や客単価等で前年割れの状態が続いている。
▲	スーパー(企画担当)	来客数の動き	・新型コロナウイルス第6波の急激な拡大で、客の来店頻度が著しく低下している。
▲	コンビニ(経営者)	来客数の動き	・今月に入り、新型コロナウイルスの新規感染者数が増加したことで、客足が鈍り、来客数に影響が出ている。今月は前年の売上を下回る見通しである。
▲	コンビニ(経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染再拡大で人の動きは低調である。来店頻度は確実に減少しており、朝の出勤時の来客数は変化がないが、夜間帯の来客数は大幅に減少している。

▲	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・前月に続いて売上は持ち直していたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が出てきている。客から感染者が出た話もあり、購買意欲の冷え込みが心配である。現状は客単価も高く、売上はどうか維持しているが、今後が心配である。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大により、客の来店が減っている。特に夕方時間帯の来客数減少が顕著である。
▲	コンビニ（店長）	販売量の動き	・1月に入り、新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大で売上が減少している。
▲	コンビニ（エリア担当・店長）	お客様の様子	・午前中と昼の来客数のピークに関しては余り変化がないが、夕方から夜にかけての客の動きが鈍くなっている。
▲	衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が一気に増加した第4週以降、来客数が激減している。
▲	家電量販店（店長）	単価の動き	・前年と比較して、新型コロナウイルスに対しての慣れもあり確実に来客数は伸長しているが、単価が大きく下がっている。特にテレビ、冷蔵庫といった高単価商材の単価が下落している。
▲	家電量販店（従業員）	単価の動き	・買上点数の減少や買上単価の下落がみられる。様々な値上げにより生活防衛意識が働いており、現場でもその声を聞く機会が増えている。
▲	その他専門店 [コーヒー豆] （経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスオミクロン株のまん延で、1月の来客数が若干減少している。業界における例年の傾向として、年末の売上は良いものの、1月は売上が下がる月である。加えて新型コロナウイルスの影響で、来客数が減っている。
▲	観光型ホテル（総務）	来客数の動き	・年明けの10日以降、新型コロナウイルスの感染が急激に拡大し、運営しているホテルの宿泊客、レストランの客が激減している。一般宴会や婚礼宴会も中止や延期が相次いでいる。
▲	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株の流行で、県の宿泊支援事業が停止し、宿泊稼働が激減している。
▲	タクシー運転手	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染再拡大により、利用客が激減している。
▲	通信会社（統括者）	販売量の動き	・携帯電話の販売台数は前年水準及び販売見込み台数を下回っている。新型コロナウイルスの感染拡大により、来客数も減少している。
▲	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・地元の常連来客数は順調に推移しているが、新型コロナウイルス新規感染者数の急激な増加で、金融機関や全国規模の会社のイベント等がキャンセルとなっており、入場者は減少傾向である。
▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・3か月前の10月における来客数は、9月の新型コロナウイルス第5波による減少から、徐々に回復する兆しをみせていた。しかし、1月に新型コロナウイルスオミクロン株が感染拡大した影響で来客数は激減している。
▲	美容室（経営者）	販売量の動き	・2～3か月前と比較すると悪くなっている。1月は閑散期になる業界ではあるが、人の動きがないため、おしゃれをすることも減り、売上が下がっている。
▲	美容室（店長）	お客様の様子	・まん延防止等重点措置が適用された途端、客足が途絶えている。景気が良くなるとは思えない。
▲	その他サービスの動向を把握できる者 [介護サービス]（管理担当）	来客数の動き	・季節要因の入院等による客の減少とともに新型コロナウイルスオミクロン株による予約取消しも増加している。
▲	設計事務所（代表）	単価の動き	・原材料費の高騰や新型コロナウイルスの感染拡大により、景気は良くない。
▲	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大により、展示場来客数が大幅に減少傾向になっている。
▲	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症は一旦落ち着いていたが、新型コロナウイルスオミクロン株が感染拡大し、客足は減少している。
×	商店街（代表者）	来客数の動き	・今月からの新型コロナウイルスオミクロン株の新規感染者数の急拡大で、商店街の人流は激減している。

×	商店街（代表者）	お客様の様子	・月初から中旬までは商店街も少しずつ活気を取り戻しつつあったが、まん延防止等重点措置が適用されてからは、午前中は食料品の購入を目的とする客の通行はあるものの、午後から客は激減する。
×	商店街（代表者）	来客数の動き	・1月の売上は想定より良かったが、まん延防止等重点措置が適用され、来客数が減少している。飲食店のみ対策支援が出ているが、他業種にも支援は必要である。
×	百貨店（企画担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が非常に少なく推移していた3か月前と比べ、第6波では新型コロナウイルスの新規感染者数が急上昇した今月中旬以降、来客数は減少傾向である。
×	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少で、平日や午後の来客数が伸びていたが、新型コロナウイルスオミクロン株による新規感染者数の急増で、中旬以降は店頭への来客数が落ち込んだ。加えて、感染防止や混雑回避のために物産催事やバレンタイン催事の来場者数も減少している。客単価、商品単価は変わらず、オンライン利用やサテライトショップ、ギフトショップにおける地元店舗の売上は堅調である。1月中旬以降、感染症対策による客の外出自粛が継続している。
×	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・12～1月中旬までは売上高が前年比10%程度改善していたが、新型コロナウイルスオミクロン株の新規感染者数の増加により、まん延防止等重点措置が適用されたため、人の動きが鈍くなり、来客数が減少している。
×	コンビニ（店長）	それ以外	・客の流れは止まっており、従業員も濃厚接触者となるなど、営業そのものが悪環境になっている。
×	住関連専門店（従業員）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染拡大のため、店頭の人通りが著しく落ち込んでいる。また例年であれば、進学や就職で県外移住する子供のために寝具を選ぶ客が多い季節だが、商品問合せが例年と比べて圧倒的に少ない。前年と同様、在宅講義や在宅勤務等を想定し、転出を先送りする人が多くなっている。
×	その他小売の動向を把握できる者【ショッピングセンター】（統括者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株による新規感染者数の増加により、来場者数が大幅に落ち込んでいる。
×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大も落ち着き始め、売上も順調に推移していたが、新型コロナウイルスオミクロン株の影響で、先が見えない状況になっている。
×	スナック（経営者）	来客数の動き	・年末から年始にかけて上向き始めた来客数が、新型コロナウイルスオミクロン株により再度減少している。
×	その他飲食の動向を把握できる者【酒卸売】（経理）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大によって、飲食店は時短営業や休業をしているため、景気は悪い。
×	観光旅館組合（職員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大により、旅行を控えている客が多い。
×	観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・当県でもまん延防止等重点措置が適用され、来客数が激減している。それまでの異常な忙しさから激変して、暇な日が続き、先行きを懸念している。
×	都市型ホテル（販売担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大により、全国的にまん延防止等重点措置が適用されており、景気は悪くなっている。
×	旅行代理店（職員）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置が適用された地域への来訪自粛や既存予約の取消しが著しく増加している。新規予約も停滞気味である。
×	タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株の新規感染者数の激増により、1月中旬以降は来客数が激減し、回復していた売上も前月から4割減少している。

	×	タクシー運転手	それ以外	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大で、当県もまん延防止等重点措置が適用されている。新型コロナウイルスオミクロン株は前回の新型コロナウイルス変異株と比較して感染拡大が速く、新規感染者数の増加も多い。これから更に景気や日常生活に影響が出てくる。
	×	競馬場（職員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大第6波の影響で、来客数が減少している。
	×	設計事務所（所長）	単価の動き	・材料や製品単価が上昇しており、食品や生活必需品の価格も上がっている。しかし、収入は増加していないため、消費は悪くなっていく。
企業 動向 関連 (九州)	◎	—	—	—
	○	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年度と比較すると、12～1月は売上も上がり、ふるさと納税の注文も伸び、全体的に景気は良い。産地全体では、対メーカーの売上は上がっているものの、対消費者の売上はまだ前年度水準に達していない。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・2～3か月前から景気は良くなっていたが、新型コロナウイルスの感染再拡大により行動が制限され、取引先でも人材不足が発生しているため、今後が不安である。
	○	電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・半導体関連の受注量と販売量が継続して好調である。
	○	電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・各取引先からの引き合いは堅調であるが、今後は原材料の値上げや不足、納期遅延等が重荷になる。
	○	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染が落ち着いているため、新聞折込は若干増加している。
	○	広告代理店（役員）	受注量や販売量の動き	・年度末であることも関係しているが、客からの発注件数が少し増加傾向にある。
	□	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・少し好調だった前年の12月に続き、例年は落ち込む傾向にある1月も順調に推移していたが、新型コロナウイルスオミクロン株がまん延した10日以降は少しずつ売上が落ちている。量販店向けについても、例年1月の動きは悪く、今年も例外ではない。例年と比べると抑えた売上計画になっているが、達成は厳しい。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・客の声や営業部門の報告から、半導体分野での業況感はある程度良くなっている。しかし、他の分野の業況は現状と変わらない。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注は好調に推移している。
	□	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の収束がみえず懸念している。コンテナ不足の解消にまだめどが立たず、物流が低迷している。状況に合わせた変革が必要となっており、従来のような取扱にはまだ戻っていない。
	□	輸送業（従業員）	それ以外	・受注量、受注価格共に伸びているが、原料調達が遅れており、生産できない状況が続いている。アルミ袋やホエイ等のプロテイン原料が不足しており、多岐にわたり調達困難な状況が続いている。
	□	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・例年1月は閑散期であるが、本年は予想以上に受注量がある。
	□	金融業（営業）	取引先の様子	・景気は新型コロナウイルスの影響を受けながら上下しており、感染状況次第である。新型コロナウイルスオミクロン株が急激に増加しており、判断はできない。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・素材産業や不動産業では、価格上昇により収益性が向上している企業が見られる。一方で製造業では、世界的なサプライチェーンの混乱に伴う部品不足の影響が依然としてみられる。また人流に依存する事業のなかでも、特に飲食店は新型コロナウイルスオミクロン株が感染拡大しており、回復していた集客は減少傾向にある。
	□	新聞社〔広告〕（担当者）	受注量や販売量の動き	・広告の申込みが増えて景気の回復を感じつつあったが、新型コロナウイルスの感染拡大でまた元に戻っている。
	□	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・取引先の業況に変化はない。

	□	経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・この3か月間、定期的にダイレクトメールを100枚前後送付しているが、目立った反応がみられない。
	□	その他サービス業〔物品リース〕（職員）	取引先の様子	・3か月前と比較すると大きな変動はないが、1月に入り新型コロナウイルスの感染拡大により、業種によっては景気が低迷している取引先もある。
	□	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	競争相手の様子	・市町村からの調査や計画策定支援等の委託業務の発注は、年度末が近づくと減少しているが、3月末を工期とする業務の入札は幾つかある。他社は受注できない状況にあり、参加した入札では、落札する業者は予定価格の半額以下で応札している。実費の経費も掛かるため、利益が僅かしか出ない。
	▲	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・主力原料の不作と品質不良により、製品を十分に供給できず、加えて原価が高騰している。
	▲	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大で、飲食店への販売量が減少している。
	▲	繊維工業（営業担当）	それ以外	・新型コロナウイルスの影響で、濃厚接触者として出勤できない人が出たため、繁忙期に休業の可能性もある。また、賃金の上昇や石油製品の価格上昇は、大きな痛手である。
	▲	金属製品製造業（事業統括）	受注量や販売量の動き	・新規案件は増加しているが、入札不調や部品納期の遅延等の影響により、実際の受注に結び付かない。
	▲	輸送用機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・海外からの部品供給減少により、生産台数も減少している。
	▲	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	取引先の様子	・原材料不足とコロナ禍の影響に加え、1月の稼働日数が少ないため、全体的に生産量が落ちている。
	▲	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・県の発注見通しが発表されたが、本格的に指名があり、受注から着手するまでにまだまだ期間を要する。コロナ禍の影響で公共工事への予算配分が少なくなっていることは理解している。しかし、平準化が全くできていないため、もう少し配慮してもらいたい。
	▲	通信業（経理担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスオミクロン株の影響が急速に拡大している。
	▲	金融業（従業員）	取引先の様子	・新型コロナウイルスオミクロン株の新規感染者数が大幅に増加し、まん延防止等重点措置が多く地域で適用されたことで、回復傾向にあった百貨店等では客足が減少しており、ホテルや旅館、飲食店等でも予約取消しが増加している。
	▲	金融業（営業担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスオミクロン株の急拡大によって、時短営業を迫られている。消費が少し落ちることで、余り影響がなかった建設業も部品や資材の調達に困難になり、また価格高騰により受注が先送りになることで、中小企業全体的に景気が悪化することになる。新型コロナウイルスオミクロン株の収束がない限り景気は悪い状況である。
	▲	金融業（調査担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大により、飲食店は営業自粛や時短営業を余儀なくされ、前年末に回復しつつあった売上は再び低迷している。職場や学校等での感染拡大が相次ぐなか、所得の増加はなく、物価上昇が消費意欲の妨げとなっている。
	▲	経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・前回の時短営業解除後、客足は戻りつつあったが、今回のまん延防止等重点措置の適用による時短営業の要請に対し、多くの事業者が心配している。
	×	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・単価が例年よりも非常に安く、在庫が余る状況になっている。
	×	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・1月上旬の景気は少し上向いていたが、新型コロナウイルスの影響で店を閉める等の厳しい状況が続いている。
雇用 関連 (九州)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・注文数が2割程度増加している。既存の客の注文に加え、新規企業からも注文が入っている。また、採用が決まったことで登録をやめる派遣登録予約者が、前月よりも目立つ。
	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人数、新規求人数共に増加が続いている。有効求人倍率も前年を上回る月が続いている。

□	人材派遣会社 (社員)	雇用形態の様子	・新型コロナウイルス関連の業務対応を実施しており、登録者の数も増えてきたことにより、雇用に動きがあるようにみえるが、通常の事務業務等の募集案件は停滞している。求職者も動きは鈍く、期間限定の案件に募集が多い年代は50代以上である。
□	求人情報誌製作 会社(編集者)	周辺企業の様子	・9月にまん延防止等重点措置が解除され、10月から年末商戦に向けて求人数の増加を期待していたが、人員に対する需要は伸びていない。また、新型コロナウイルスの新規感染者数が徐々に増加し、まん延防止等重点措置の再適用が危惧されるため、雇用に消極的な姿勢となっている。
□	民間職業紹介機 関(職員)	求人数の動き	・前年はこの時期の求人数がかなり少なく、希望者に対して十分な求人がなかったが、今年の求人自体は、継続してある状況である。しかし、学生とのマッチングの視点でいうと必ずしもうまくいっておらず、どちらともいえない状況である。
□	学校[大学] (就職支援業 務)	求人数の動き	・内定状況は、前年と比較して若干良く、前々年との比較では少し悪い状況である。現在も就職活動をしている2022年度卒業の学生が若干残っており、求人依頼件数も一定数あることで、年間を通じた採用活動をする企業も前年度と比較して増えている。また、新型コロナウイルスの影響はまだまだ続く状況ではあるが、2023年度卒業の採用を増やす企業も出ており、求人状況は少し好転する。
▲	新聞社[求人広 告](社員)	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスオミクロン株の爆発的な新規感染者数増加で、緊急事態宣言は発出されていないものの、企業活動の鈍化がみられ、新聞広告の量に影響が出ている。特に、宿泊や旅行関連の広告は、ほぼない状況である。長距離列車は空席が目立ち、地下鉄も人の動きが止まっている。
▲	新聞社[求人広 告](担当者)	それ以外	・3か月前は新型コロナウイルスも比較的落ち着いており、中心市街地への人出や飲食店での宴会等も戻っていたが、1月以降の新型コロナウイルスオミクロン株の新規感染者数の急拡大により、当県でも、まん延防止等重点措置が適用され、景気の上昇が止まってしまっている。
▲	新聞社[求人広 告](担当者)	周辺企業の様子	・新型コロナウイルス第6波における急激な感染拡大の影響により、休業や時短営業をする飲食店が急増している。補助金や雇用調整助成金等がいつまでも続く状況ではないこともあり、今後の景気に影響する。
×	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・新型コロナウイルス感染拡大第6波の影響で、案件の取消しや日延べ、縮小が続いている。
×	職業安定所(職 員)	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの感染状況が一旦落ち着き、明るい兆しが出たためアルバイトを雇用したものの、1月下旬にまん延防止等重点措置の適用が要請され、再度、時短営業をしなければならず、今回こそ経営が危ういという飲食業者からの声が複数ある。